

# 琉球大学学術リポジトリ

## 島嶼地域の特性を活かした新たな特別支援教育ネットワークシステムの構築

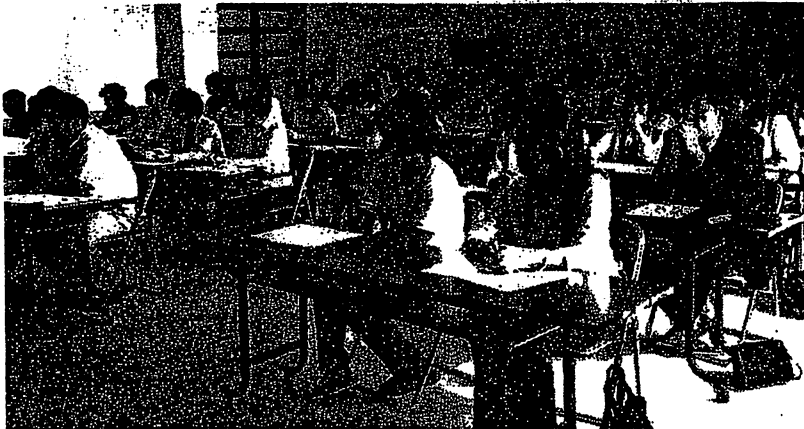
メタデータ	言語: 出版者: 緒方茂樹 公開日: 2009-03-06 キーワード (Ja): 特別支援教育, 離島地域, 宮古圏域, ネットワークシステム, 公立学校, 養護学校, 教育相談, 学校支援 キーワード (En): 作成者: 緒方, 茂樹, Ogata, Shigeki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/9108">http://hdl.handle.net/20.500.12000/9108</a>

# 各機関でネットワーク構築を

## 特殊教育の指導拡充

### 琉大の「特別支援教育」で講演会 緒方さん

障害のある児童・生徒の生活や学習上の困難克服に向けた支援を行う「特別支援教育」についての講演会が二十七日、ゆいみなあ（平良市働く婦人の家）で行われた。琉球大学教育学部助教授の緒方茂樹さんが講話し、特別支援教育コーディネーターを中心とした各関係機関のネットワークシステムの構築を提言。各校における実態の把握やニーズの明確化、各関係機関における柔軟な情報交換などを促した。会場には各市町村の教育関係者や父母らが集まり、今後の対応や体制づくりについて知識を深めていった。



多くの教育関係者が、障害を持つ子供たちに対する特別支援教育の体制整備について知識を深めた=27日、ゆいみなあ（平良市働く婦人の家）

特別支援教育とは、知的、言語障害などを対象とする従来の特殊教育から学習障害や注意欠陥、多動性障害、知的障害を伴わない高機能自閉症などの子供たちを対象を広げ、生活や学習の支援を行う教育。この講演会は、昨年度に文部科学省が発表したガイドラインで、二〇〇七年度までに支援体制を構築する方針が打ち出されたことを受け、宮古での在り方を探ろうと開いた。来年度には具体的な支援を行ったり各機関を連絡調整する「コーディネーターを各校に配置。現行の盲・ろう・養護学校は「特別支援学校」へ、普通学校の特殊学級は「特別支援教室」へと移行する。



緒方茂樹さん

緒方さんはこれまで、光の当たりにくいゾーンにいた子供たちに対し、適切な対応を考えていかなければならぬ。最終的には通常のクラスで力を高められるよう支援することが大切」と指摘。関係機関のつながりについては「宮古は人のつながりが深く、その特性を生かせば個人から組織へと拡充しやすい。専門性によって校内に複数の担当者置いたり、教育委員会と学校現場の意見交換を柔軟にするなど、役割を分担して柔軟なネットワークの構築を」と述べた。また、共通認識の下での支援体制をつくるために「いわゆる、気にかかる子供の個性が何らかの障害に由来するものかの見極めや、具体的なニーズを把握するために研修会の充実が必要」と関係者の意識高揚を促した。

現在、宮古管内の普通

学校における特殊学級の設置数は、小学校十校、中学校六校。講演に先立ち宮古教育事務所の本村幸雄所長は「障害を持つ子供一人ひとりが、人とのかわりの中で豊かに生きるための教育を充実させていこう」と呼び掛けた。

# 情報共有 共通認識を

## ネットワーキングの重要性

### 特別支援 緒方氏(琉大教育)が講演

学習障害や注意欠陥・多動性障害のある子供達を支援する(左)を目的



真剣な表情で講演に聞き入る参加者ら＝平良市勤婦人の家

た二〇〇四年度特別支援教育講演会(主催、宮古教育事務所、平良市教育委員会)が二十七日午後、平良市勤婦人の家ホールで開催された。琉球大学教育学部附属教育支援センターの緒方成樹氏が特別支援教育の重要性を講演し、子供達に合わせた指導の重要性を述べた。

緒方氏は、対象となる児童生徒が学習障害や注意欠陥・多動性障害や知的障害を伴わない高機能自閉症の児童であることが多く、基本的な方針、いずれも個別の教育支援計画の策定が重要であると述べた。

特別支援学校へ移行する児童生徒は、来年度までに各校に配置されることになる。特別支援センター、特別支援学校の役割、教育機関や医療機関、福祉機関を連携させたネットワーク案などを説明しながら、ネットワーキングの重要性を強調した。

講演後は、課題に直面している現場教師の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教師の活発な質問が行われた。

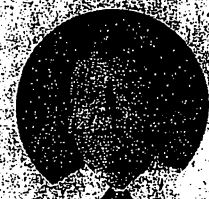
講演後は、課題に直面している現場教師の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教師の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教師の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教師の活発な質問が行われた。

講演後は、課題に直面している現場教師の活発な質問が行われた。



緒方成樹氏

講演後は、課題に直面している現場教師の活発な質問が行われた。

# 特別支援教育に連携

## 会長に緒方さん(琉大)選任

宮古地域特別支援教育連携協議会の今年度第一回会議が二十五日、宮古教育事務所で行われ、会長に緒方茂樹琉球大学教育学部教授を選任するとともに、専門家チームの今後の在り方などについて意見を交わした。

同協議会は、障害のある子どもたちのニーズに応じた教育や福祉医療、労働など、関係機関の連携による教育的支援体制の整備の推進および地域における特別支援教育の推進を図ることを目的に設置。活動は今年で三年



緒方茂樹琉大教授

目になる。

会議の冒頭、あいさつした新崎治宮古教育事務所長は「学校で困っている子どもたちをどうサポートしていくかは大きな課題。子どもたちの信頼関係を構築していく方策を提言してもらえれば」と述べた。

会議では、緒方会長が県内における特別支援教育の動向や今年度の事業内容などを説明。今年度の新たな試みとして、実務部隊としての専門家チームの機能の充実などを挙げた。

同協議会委員と専門家チーム(実務担当者)は次の通り。

【協議会委員】▽会長 緒方茂樹(琉大教育学部教授)▽副会長 安谷

校長▽委員 原真理子(宮古福祉保健所長)、與儀千寿子(南小校長)、龜沢敏郎(下中校長)、下地盛雄(宮古豊林高校長)、田場秀樹(宮古教育事務所指導課長)、兵川宗和(宮古島市教育委員会学校教育課主幹)、瀬名波正敏(みやこ学園支援課長)

【専門家チーム】▽緒方茂樹(琉大教育学部教授)▽武富博寿(宮古病院小児科医長)▽池原和子(宮古福祉保健所保健師)▽大城由美子(沖縄リハビリテーション福祉学院)▽宮川正廣(地域生活支援センターコーディネーター)▽上原ひるみ(宮古看護学校教諭)▽コトナイネーター▽乾麗子(輪原中養護教諭)

▽池間広樹(宮古島市教育委員会就学担当)

17

2007/5/17

宮古新報

NIPPON TV NEWS



実を目的に琉球大学教育

# 琉大の研究成果 宮古島市に還元 離島教育協力で協定



協定を締結した琉球大学教育  
長と宮古島市教育委員会の久員  
勝盛教育長(右から)と宮古島市役所庁舎

育学部(會澤卓司学部長)と宮古島市教育委員  
会(久員勝盛教育長)は十八日、宮古島市役所庁舎  
良庁舎で「連携・協力  
に関する協定書」を締結  
した。締結に併せて琉大  
側は鹿兒島、長崎両大学  
との三天学で進める離島  
・へき地域の教育に関  
する研修型「クシヨツ  
ク」を二〇八年の早い時  
期に宮古島市内で開講す  
る考えを伝えた。

離島地域を抱える三天  
学は〇五年度から「離島  
教育の革新」をテーマに  
研究を続けている。クシ  
ヨツクには市内の教  
員も参加し、大学側と現  
場教員の意見交換を図る  
場となる。市教委側も受  
け入れの意向を示してお  
り、双方で近く連絡推進  
会議を立ち上げ、具体的  
な準備作業を進めてい  
く。

會澤学部長は「宮古島  
市と琉大は特別支援教育  
での協力が続く。今  
後はテーマを国語や算数  
など各教科に広げて、教  
育委員会の要請に応えら  
れるようにしたい」と抱  
負。久員教育長は「大学  
のクシヨツクは素晴らしい  
、宮古島の教員が  
ベシツクにつなげ  
子どもたちにも還元され  
る」と喜びを語った。

2007/5/22

仲尾 久仁

# 教員、学生の資質向上を

## 市教育委員会と 連携・協力で調印

宮古島市教育委員会と琉球大学教育学部が十八日、相互の資質向上を目的とする連携・協力に関する協定書に調印した。

調印により、宮古島市の戦の勝利に向け氣勢を上げた。

西銘 順志郎（77）め・じゅんしろう（77）50（昭和25）年1月2日生まれ。南城市出身。立正大学経済学科卒業。73年琉球海運入社。79年から県知事秘書を務めその後、自民党青年局中央常任委員、同党沖縄支部連合会総務会長、同副会長などを歴任。04年参院選初当選。現任自民党員連会長。

そのほか、饒間光勇浦添市長、古謝賢春南城市長、糸洲朝則公明党本部長、西銘氏の勝利に向け、集まった支持者らに支援を訴えた。最後は、四月の参院補選で当選した島尻安伊子参院議員によるカンパ口三唱が行われ、選挙

教員には大学における高度な教育と研究に触れる機会が、琉大の教員や学生には離島教育の現状を学ぶ場がそれぞれ提供される。琉大教育学部が自治体の教育機関と同様の協定を結ぶのは県内で四例目。

調印式は宮古島市役所平良庁舎で行われ、市教委の久員勝盛教育長と琉大教育学部の會澤卓司学部長が調印、連携、協力を約束した。

會澤学部長は「われわれの大学はレベルの高い、質の高い学生を養成することが任務。一朝一夕にはいかながら今回のよ

うな協定で現場のニーズとほ何かということを

考えることができる。学生の実践力や離島へき地教育を向上させたい。大学からもできる限りのことを市に還元していきたいと考えている」と協定の意義を強調した。

久員教育長は「長い間の夢がかなった。この調印を機に、宮古島市の教育

育のレベルアップを図るとともに、子どもたちの質の高い教育を保証していきたい」と話した。

協定書によると、事業内容は▽市の教員の資質向上のための研修開催▽市の教育上の諸課題に対応した調査・研究▽琉大の教員や学生による宮古島市における教育活動▽琉大の学生の宮古島市におけるインターンシップに関することなど。

市教委の具体的メリットとして、教員が調査・研究のために琉大で学ぶ機会が得られる。また、琉大が宮古島市で「出前講座」を開催することから、講演会形式による資質向上の機会が増えることが挙げられる。



古島市教育委員会と琉球大学が協定書に調印した。左から、市教委の久員勝盛教育長と琉大教育学部の會澤卓司学部長。18日、宮古島市役所平良庁舎

# 教育の質向上で連携

# 市が琉大と協定調印



教育に関する連携・協力で協定書を手を握手する久員教育長（左）と會澤学部長＝市役所平良庁舎6階

宮古島市教育委員会（久員勝盛教育長）と琉球大学教育学部（會澤卓司学部長）は十八日午後、市役所平良庁舎内で市教職員の資質向上や教育活動支援などを盛り込んだ連携・協力に関する協定書に調印した。同学部が地方自治体及び関係機関と協定を結ぶのは県内で四番目。具体的な連携・協力は今後、両者で組織する連携推進会議を設置した上で実施する方針で、協定を踏まえ関係者では、市教員の同学部への派遣研修、宮古における教育に関する調査・研究を通じた教育環境向上に期待を寄せている。

## 教員の研修、調査実施

協定内容は、市立学校の幼児・児童・生徒、同学部の教員・学生を対象とした事業を実施するもの。市教育委が大学での高度な教育や研究にふれる機会を提供して個々の能力や適正を伸ばすとともに、同学部の教員と学生が離島の宮古島の教育に対する理解を深めるため、教育に資する研究と事業を行うことが目的。事業では市教員の研修や読書会などを実施。調査・研究、学部による教育活動支援と市における学校インターシップなどを位

置けている。協定期間は一年間とし、両者の改定申し入れがない場合は一年ごとに継続する。

調印式で會澤学部長は「学部は教員養成の重責を担っているが、中央教育審議会や教育再生会議など、外から厳しい注文が寄せられている。教員養成で求められるのは実践力。理論、実践の質を上げることが任務。現場との交流、連携・協力を、ニーズに応えられる教育をどうつくるかが課題である。その意味で宮

古島市教育委員会との連携・協力により、実践力を高め、離島へき地教育について市の力を借りて学部と連携し、学部で新しいカリキュラムを開発して市に還元したい」と意欲を見せた。久員教育長は、「長い間の夢であり、念願だった調印式が行われ嬉しく思う。これを機に宮古島のレベルアップを図り、子どもたちに質の高い教育を保障することができるよう努力したい」と述べ、協力を求めた。立ち会った伊志嶺亮市長は、「教育をめぐる状況は変動の時期にある。市としては昨年、教育研究所を立ち上げた。協定によって市教職員への指導が得られることなどについては宮古の児童・生徒の教育環境向上につながる」と期待を寄せた。

2007/5/19

宮古新報

# 池間小の「オカガニ」観察会「好例」

## 地域素材を教材に活用

鹿角へき地の教育実践を紹介する教育フォーラムが二十九日、宮古支庁鹿角市で開かれ、共同研究協議会実施している琉球大学、長崎大学、鹿角市立池間小学校、宮古市立砂川小学校教諭ら五人の教職員五人による実践発表のほか、教科資料の充実に向けた取り組みが行われた。多数の教職員が参加して同町向上に役立てた。



鹿角、へき地における学校教育を考えるフォーラム＝29日、宮古支庁



キャリア教育についてのワークショップで議論を深めた教諭ら＝29日、北中学校

「オカガニ」は「鹿角へき地」の地域資源を教材に活用する実践を紹介する。鹿角市立池間小学校の池間校長は、共同研究協議会実施している琉球大学、長崎大学、鹿角市立池間小学校、宮古市立砂川小学校教諭ら五人の教職員五人による実践発表のほか、教科資料の充実に向けた取り組みが行われた。多数の教職員が参加して同町向上に役立てた。

友が積極的に参加し、かわらぬと、教諭の奨励による学校文化の刷新に期待している効果を見た。

ワークショップ  
家庭・地域との連携必要

教育フォーラムは、鹿角市立池間小学校の池間校長が、ワークショップで議論を深めた教諭らと、キャリア教育について、宮古支庁の状況や課題を共有し、家庭・地域との連携の重要性を強調した。ワークショップでは、キャリア教育の重要性や、地域資源を活用した実践の紹介が行われた。また、キャリア教育の推進に向けた取り組みや、家庭・地域との連携の重要性についても議論された。

# 07年総販売額は2700万円

## 子牛の自家保留が奏功

二千八百の牛地城肉一総合事務所(宮古)が宮古一帯の肉牛生産者から、肉牛の自家保留が奏功した。肉牛の自家保留が、肉牛の生産者から肉牛を購入し、肉牛の自家保留が奏功した。肉牛の自家保留が、肉牛の生産者から肉牛を購入し、肉牛の自家保留が奏功した。

大会に向けて出発した男女の宮古選抜チーム＝29日、宮古空港



# 宮古選抜チームが出発

## きょう県ミニバスケット

宮古選抜チームが二十九日、大会に向けて出発した。宮古選抜チームは、きょう県ミニバスケット大会に出場する。宮古選抜チームは、きょう県ミニバスケット大会に出場する。宮古選抜チームは、きょう県ミニバスケット大会に出場する。

# 初の宮古キャンプで来島

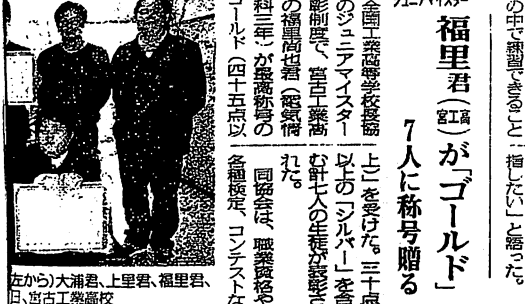
## リーグV奪回目指す

宮古大学硬式野球部が初の宮古キャンプで来島した。リーグV奪回を目指す。宮古大学硬式野球部は、初の宮古キャンプで来島した。リーグV奪回を目指す。



宮古大学硬式野球部が初の宮古キャンプで来島した。

宮古大学硬式野球部が初の宮古キャンプで来島した。リーグV奪回を目指す。宮古大学硬式野球部は、初の宮古キャンプで来島した。リーグV奪回を目指す。



左から大浦君、上里君、福里君、日、宮古工業高校

福里君(宮古)が「ゴール」7人に称号贈る。福里君は、宮古工業高校から来島した。福里君は、宮古工業高校から来島した。

**事務所開き**

宮古支庁バスセンター

**おかげさまで9周年**

お客様感謝セール

店頭販売のみ 配達出来ません!

5kg 1,180円

みやぎ米屋(株)

**CALISM**

IN LIFE

ギャングスタスタイル

**オープン**

あびの川 〇タケハラ家具

東平安名崎方面

マンゴースイーツカフェ

**新香茶**

TEL77-8878

ATARAKACHA

2月23日(土)オープンしました

ランチタイム

11:00~14:00

9:00~18:00

**電動四輪車**

免許不要

170,000円

メンテナンスもおまかせ下さい

中古車も取り扱っています



教育フォーラム 離島へき地教育を考える

指導力向上へ実践

シンポジウム 学校と地域の連携強調

離島へき地教育の現在とこれから - 教育フォーラム宮古 -



離島・へき地教育を考えるシンポジウムでは宮古島市、長岡県岩手、鹿児島県奄美など離島から登壇提案が行われ意見を交わした。宮古文庁2階議室

離島へき地教育の現在とこれからというテーマで、教育フォーラム宮古(主催: 琉球大学など)が十九日、宮古島文庁2階議室で開かれた。出席者は宮古島市、長岡県岩手、鹿児島県奄美など離島から登壇提案が行われ意見を交わした。宮古文庁2階議室

「離島へき地教育の現在とこれから」というテーマで、教育フォーラム宮古(主催: 琉球大学など)が十九日、宮古島文庁2階議室で開かれた。出席者は宮古島市、長岡県岩手、鹿児島県奄美など離島から登壇提案が行われ意見を交わした。宮古文庁2階議室

宮古島市立中学校の教員らが発言した。宮古島市の教育長は「離島へき地教育は、地域と学校の連携が重要」と強調した。

宮古島市立中学校の教員らが発言した。宮古島市の教育長は「離島へき地教育は、地域と学校の連携が重要」と強調した。

ポリ容器触らないで

北海岸等 多数漂着 危険な強酸性も

北海岸等の北海岸等に多数漂着しているポリ容器が、危険な強酸性ももたらしていることが、環境庁の調査で明らかになった。

北海岸等の北海岸等に多数漂着しているポリ容器が、危険な強酸性ももたらしていることが、環境庁の調査で明らかになった。

ユニークな授業披露

分科会ワークショップ

午後二時から南小体育館で行われたワークショップで、参加者はユニークな授業を披露した。



受賞者(前列左から)大浦くん、上里くん、福里くん、(後列左から)平良くん、奥平くん、砂川くん、指導した園花教師ら=宮古工業高校校長室

福里尚也くんゴールド取得

ジュニアマイスター

上里くんもシルバー認定

園花工業高校の生徒七人が、ジュニアマイスターのゴールドとシルバー認定を取得した。

園花工業高校の生徒七人が、ジュニアマイスターのゴールドとシルバー認定を取得した。



体育科ワークショップで、新聞紙を使った表現運動を楽しむ子どもたち=南小体育館